

# 新刊児童図書リスト

(平成 28 年度版)

平成 29 年 3 月  
広島県立図書館

## 第 28 号



### 📖リストについて

- ・ このリストに掲載した絵本は、平成 28 年 1 月から同年 12 月までの間に出版されたものです。また、児童図書は平成 28 年 3 月から平成 28 年 10 月までの間に、青少年向け図書は、平成 27 年 6 月から平成 28 年 10 月までの間に出版された読み物です。
- ・ このリストの各テーマは、本を紹介しやすいように便宜上設けたものです。他のテーマに分類できるものもありますが、御了承ください。
- ・ 【 】の中は、県立図書館の資料分類のための請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て広島県立図書館で借りることができます。また、お近くの公立図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

## 絵本

### ◆ 昔…？

『月宮殿のおつかい』久留島武彦／作，アヤ井アキコ／絵，幻冬舎メディアコンサルティング【E 7】

丘へ行く羊の親子の前に，お腹を空かせた狼が現れました。お母さん羊は，「秋には太ってもっとおいしくなっていますよ」とその場を切り抜けます。心配でふさぎこんでしまったお母さん羊を見たウサギは，なぜだか鈴や動物の皮を集めるように言いました。

『平太郎のおぼけやしき：稲生物怪録絵巻より』寮美千子／文，ロクリン社【E 9】

三次市に伝わる怪談話「稲生物怪録絵巻」を基に，絵巻の実際の絵を使って作られた絵本です。肝っ玉がすわっていると評判の稲生平太郎の前に，毎晩化け物が現れるようになりました。

### ◆ 科学

『干したから…』森枝卓士／写真・文，フレーベル館【619 ㉔】

野菜や果物，魚や肉，そしてカエルやコウモリまで，世界中でいろいろなものが干して食べられています。世界各地の「食」を取材した著者が，人は，なぜ食べものを干すのか，干すと食べ物はどうなるのかを紹介した写真絵本です。

『むしこぶみつけた』新開孝／写真・文，ポプラ社【C 4】

木の枝にある「虫こぶ」。虫こぶは，実のように見えますが，中では，虫の幼虫が育っています。『うんちレストラン』などの作品がある昆虫写真家の新開孝さんが追った不思議な世界です。

『チューリップ』赤木かん子／作，藤井英美／写真，新樹社【479 7】

チューリップは種から育てると，花が咲くまでには5年もかかります。「もっと知りたい」シリーズの1冊です。大きな文字の部分だけを読むか，または小さい文字も足して読むなど，聞き手に合わせて読み分けることを想定して作られています。

### ◆ 動物

『10ねこ』岩合光昭／[作]，福音館書店【E 4】

動物写真家として有名な岩合光昭さんがライフワークとして撮った100万点を超える猫の写真の中から10枚の写真を選んでいきます。「1ねこ」，「2ねこ」と一匹ずつ増えていく手法は、『10パンダ』と同様です。

『こわい、こわい、こわい? : しりたがりネズミのおはなし』ラフィク・シャミ／文, カトリー  
ン・シェーラー／絵, 那須田淳／訳, 西村書店【E ヌ】

怖いもの知らずの子ネズミのミナが「コワイもの」を探しに行くお話です。ミナは、ライオン  
やゾウに「コワイ」ってどういうことか尋ねてみました。

## ◆ 子供

『はがぬけたよ』安江リエ／作, 山口マオ／絵, 福音館書店【E ヤ】

こうじには、もうすぐ抜けそうな歯があります。お父さんは子供の頃、ドアのノッカーの飾り  
のライオンと歯を糸で結びつけて、ドアをボタンと締めて歯を抜いたと話してくれました。それ  
を聞いて怖くなったこうじは、慌てて外に飛び出します。すると、向こうからワニがやってきま  
した。

『ろってちゃん』ディック・ブルーナ／ぶん・え, まつおかきょうこ／やく, 福音館書店【E 7】

友だち三人がボールで遊んでいると、車椅子に乗ったろってちゃんがやってきました。一人は、  
ろってちゃんを誘おうとしましたが、あとの二人はろってちゃんが入るとつまらなくなると思っ  
て、仲間に入れたくないと言いました。

子供の、障害に対する率直な気持ちや、それぞれの個性を認める様子を描いています。

『ことりのおそうしき』マーガレット・ワイズ・ブラウン／文, クリスチャン・ロビンソン／絵,  
なかがわちひろ／訳, あすなろ書房【E 7】

子供たちが、死んでいる小鳥を見付けてお墓を作り、お葬式をしてあげるお話です。このマー  
ガレット・ワイズ・ブラウンの作品は、1978年に『ちいさなとりよ』というタイトルで、岩波書  
店から発行されました。読み比べると、隅々にまでこだわった言葉と絵を味わうことができます。

## ◆ 乗り物

『きかんしゃホブ・ノブ』ルース・エインズワース／作, 上條由美子／訳, 安徳瑛／画, 福音館  
書店【E エ】

ホブ・ノブという名前の赤い機関車が、子羊や猫、アヒルなどの動物たちを貨車に乗せて遊園  
地に向かいます。途中の真っ暗なトンネルの中では、怖がる動物たちを安心させるため、ホブ・  
ノブは赤や黄色の明るい火の粉を吐き出しました。

『ねずみにぴったりののりもの』マリー・ホール・エッツ／さく, こみやゆう／やく, 好学社【E  
エ】

ジョニーの家の地下室には、ねずみの家族が住んでいました。ある晩、ねずみたちがジョニー  
の部屋に忍び込むと、そこにはおもちゃの乗り物がたくさんありました。ねずみが乗ってみると、  
大きさはぴったりです。でも…。

## ◆ 赤ちゃん向け絵本

### 『あーそーぼ』やぎゅうまちこ／さく，福音館書店【E ㍶】

女の子が友だちの家に行って「あーそーぼ」と声をかけますが，友だちは掃除をしていたり，お風呂に入っていたり…。わらべ歌の「ひとやまこえて」をもとにして生まれたお話で，「あーそーぼ」と「あーとーで」の，かけ合いが楽しい絵本です。

### 『ペンギんたいそう』齋藤慎／さく，福音館書店【E ㍷】

「ペンギんたいそう はじめるよ。」「いきをすってー」「はいてー」「くびをのぼしてー」。  
全ページ明るい黄色一色を背景にして，ペンギンの動きを描いています。

## ◆ 音

### 『かばのさら・ばらのかさ：もじのじゅんばんならべかえ』石津ちひろ／ことば，高島純／え，ポプラ社【E ㍸】

「まくがあいた」→「あたいがくま」。文字の順番を並べ替えることをアナグラムといいます。この本は，全てアナグラムで書かれた絵本です。高島純さんの少し脱力感のあるユーモラスな絵と文字を並べ替えてできた言葉は，実は高度に計算しつくされたテクニックによるものです。

### 『かあかあもうもう』丹治匠／さく，こぐま社【E ㍿】

カラスが「かあかあ」と鳴けば，牛は「もうもう」。最初は気持ちよく歌っていましたが，だんだんと声の大きさと競い合い双方とも疲れ果ててしまいます。文字が画面いっぱいになりばめられていて，相手より大きな声で歌おうとしている様子が伝わってきます。

## ◆ いろいろな国

### 『ラマダンのお月さま』ナイマ・B. ロバート／文，シーリーン・アドル／絵，前田君江／訳，解放出版社【E ㍺】

イスラム教徒が断食をする月「ラマダン」の様子を描いた絵本です。断食は多くの人が一斉に行うため一体感や充実感もあるそうです。日が暮れてから食べるごはんや断食を無事終えた後の「イード」というお祭りなどを生き生きと描いています。

### 『小さなサンと天の竜』チェンジャンホン／作・絵，平岡敦／訳，徳間書店【E ㍻】

少年サンの家は，三つの高い山に囲まれた谷にありました。険しい山を越え，畑仕事に行かなければならない暮らしに，サンの両親は憔悴しきってしまいます。その姿を見たサンは，山を越えなくても畑に行けるように，「山を動かそう」と考えました。

『300年まえから伝わりとびきりおいしいデザート』エミリー・ジェンキンス／文，ソフィー・ブラッコール／絵，横山和江／訳，あすなる書房【E 5】

「フール」は、西ヨーロッパに伝わる最も古いデザートのひとつといわれています。300年前までさかのぼり、4つの時代の4組の親子がフールを作る様子を描いています。家族の温かさや、時間をかけてデザートを手作りする丁寧な暮らしぶりが伝わってきます。

## ◆ ホントの話？

『わたしのそばできいていて』リサ・パップ／作，菊田まりこ／訳，WAVE出版【E 6】

字を読むのが嫌いなマディは、音読をすることが苦手です。しかし、図書館にいる特別な犬に読み聞かせをすることで、マディにある変化が起きました。アメリカ等で実際に行われているLibrary Dog（読書介助犬）の取組みを描いた作品です。

『サリバン先生とヘレン：ふたりの奇跡の4か月』デボラ・ホプキンソン／文，ラウル・コローン／絵，こだまともこ／訳，光村教育図書【289 冊】

目が見えず耳も聞こえず口を利くことができなかったヘレンは、家庭教師のサリバンと出会い、わずか4か月の間に手紙を書けるようになりました。サリバンが行った画期的な指導とヘレンの劇的な変化・成長ぶりを描いた作品です。

『プーさんとであった日：世界でいちばんゆうめいなクマのほんとうにあったお話』リンジー・マティック／ぶん，ソフィー・ブラッコール／え，山口文生／やく，評論社【E 7】

獣医師のハリーが買い取った熊は、ある親子に出会うことで世界一有名な熊になりました。ハリーは著者のひいおじいさんで、戦地へその熊を連れて行ったことからこのお話は始まったのでした。2016年コルデコット賞受賞作。

## 児童図書

### ◆ 社会

『マレットファン：夢のたねまき』村中李衣 / 作，新日本出版社【372 A】

「マレットファン」は、教育支援を行うタイ国認定の NGO です。主催者の松尾久美さんは、スマトラ島沖の巨大地震で被害を受けたタイに、ボランティアスタッフとしてやってきました。そして、被災地に図書館を作る取り組みの中で、出会ったタイ人女性と一緒に「マレットファン」を立ち上げました。

『知里幸恵物語：アイヌの「物語」を命がけで伝えた人』金治直美 / 著，PHP 研究所【289 ㊦】

アイヌの言葉や文化を守ろうとした知里幸恵を描いた物語です。アイヌの子として生まれた幸恵は、学校で学んだローマ字を使ってアイヌの詩物語を日本語に訳しました。その校正を終えた翌日に、幸恵は 19 歳の若さで亡くなりました。原稿は『アイヌ神謡集』として出版されました。

### ◆ ハラハラドキドキ

『にわとり城』松野正子 / 作，大社玲子 / 絵，こぐま社【Y913 マ】

昔、一人ぼっちの息子がいました。貧乏でのろまだけれど心の優しい息子は、食べる物が無くなり、最後に残った一羽のめんどりを連れて旅に出ることにしました。やがて、真っ暗な森の中で魔物とのなぞなぞ対決が始まります。小学校低学年向けに作られた「こぐまのどんどんぶんこ」シリーズの一冊です。

『隅田川の妖怪教室』隅田川妖怪絵巻 PROJECT / 編，講談社【388 ス】

東京都荒川区の隅田川周辺にある小中学校には、「妖怪教室」という授業があります。妖怪教室の先生は、「日本物怪観光」から派遣された天野行雄さんです。妖怪教室では、妖怪の種類や妖怪の見付け方などを教わったり、ワークショップをしたりします。

### ◆ 魔法の言葉

『四人のおばあちゃん』ダイアナ・ウィン・ジョーンズ / 作，野口絵美 / 訳，佐竹美保 / 絵，徳間書店【933 シ】

ある時、子守りを頼まれたおばあちゃんたちが、入れ代わり立ち代わり二人の孫を世話しようとしています。しかし、発明好きの兄エルグが作った「おいのりマシン」のせいで、妹のエミリーが消えてしまいます。登場人物が個性的で、描写も臨場感にあふれています。

**『きかせたがりやの魔女』岡田淳／作，はたこうしろう／絵，偕成社【913 オ】**

突然現れた魔女のチヨジョさんは、「ぼく」にストーリーテリングを聞かせてくれました。話の内容は、小学校にいるいろいろな魔女のことでした。モノクロの挿絵は、全ページ配置が異なり、文章だけでなく見た目にも楽しい構成になっています。

**『テオの「ありがとう」ノート』クロディーヌ・ル・グイック=プリエト／著，坂田雪子／訳，PHP 研究所【953 ヲ】**

12歳のテオは、両足と左手が不自由で車イスを使っています。テオは、手助けされる度に「ありがとう」と言うことが嫌になり、ある決心をしました。失敗しても諦めずに挑戦することの大切さを描いた作品です。

◆ **秘密**

**『王様に恋した魔女』柏葉幸子／作，佐竹美保／絵，講談社【913 カ】**

昔、魔女は国同士の戦に貢献し、勝敗を左右するほどの力を持っていました。王様は優秀な魔女をそばに置きたがりましたが、結婚する相手は、当然、人間のお姫様を選ぶのでした。魔法のおどろおどろしい世界を描くとともに、魔女の「女心」や弱いものへの愛情に触れた大人も身につまされるファンタジーです。

## 青少年向け図書

### 『Masato』岩城けい／著，集英社【F 115】

家族でオーストラリアに移住した12歳の真人は、現地の小学校に通うこととなりますが、英語がほとんど話せないため、クラスになじめません。しかし、サッカーを通じて友達ができたことで、徐々に海外生活にも慣れてきます。一方、いつまでたっても周囲の環境になじめない母親からは、一緒に帰国しようと言われます。第32回坪田譲治文学賞受賞作。

### 『私には山がある：大きな愛に包まれて』田部井淳子／著，PHP研究所【786.1 115ㄎ】

女性として世界で初めて世界最高峰のエベレストの登頂に成功した田部井淳子さんは、女性初の七大陸の最高峰登頂者でもあります。がんが発覚した後も登山を続けた田部井さんが語る、登山の魅力が綴られています。2014年に放送されたNHK BSプレミアムのインタビュー番組を単行本化しています。

### 『小説の書きかた』須藤靖貴／著，講談社【913 ス】

高校の文芸部を舞台にした爽やかな青春小説です。文芸部員の4人は、部長の提案で、リレー小説を書いて出版社の新人賞に応募することにしますが、入部したばかりのキミコは、実は小説をあまり読んだことはありませんでした。高校生が考える小説の書き方のコツを、「アイポ」、「コンカツ」、「シルコジオ」等今どきの感覚で説明しています。

### 『レイン：雨を抱きしめて』アン・M.マーティン／作，西本かおる／訳，小峰書店【933 マ】

ローズは11歳の高機能自閉症の女の子。あるハリケーンの日、飼い犬のレインが行方不明になります。ローズは、自分一人で考えた「行方不明の犬をさがす方法」を実行し、レインを探し出しますが、実はレインには他に飼い主がいたことが分かります。